

茨城県立図書館ボランティア
通信紙 No.25 (2015.4.23 刊行)
広報委員会編集、県立図書館発行

かがやき

平成 26 年度の活動と課題

県立図書館ボランティア協議会
高根沢洋子

県立図書館ボランティアは、各分野で活動するとともに、図書館行事への参加、また、各分野の委員長・副委員長からなる協議会を設け、全体に関わる事柄について協議している。

平成 26 年度は、「子ども読書フェスティバル」(5 月 5 日)・「いばらき読書フェスティバル」(11 月 2 日)に児童サービス・図書修理・対面朗読・録音図書製作の分野でそれぞれの活動を活かした催しを行うと共に、イベントボランティアとして分野を超えて参加、フェスティバルの裏方として働いた。来場者数は、両フェスティバルで、合計 6200 名を超える盛況だった。また、「名作を楽しむ会」では、テーマの宮澤賢治の作品を録音図書製作ボランティアが音訳し、好評を得た。このように、日頃の活動を多くの方に知って頂き、県立図書館に親しみを持ち、図書館活動のお手伝いができることは、嬉しいことである。

協議会は、例年どおり 4 回開催。分野ごとの活動報告、協議会補助金の予算・決算の審議、研修会・見学会の協議、役員の決定などを行った。研修会は、「お互いをもっと理解しよう」の精神の下、各分野がそれぞれの活動について発表した。パソコンを駆使しての映像や、紙芝居の実演など、多種多様な、個性にあふれた内容の素晴らしい研修会となった。見学会はリニューアルされた茨城大学図書館と東海村立図書館を訪問。東海村立図書館では、ボランティアの方々と交流し、お互いの活動をとおして見聞を広めると共に、問題点を共有することができた。

県立図書館ボランティアは、教育・文化の振興分野で「平成 26 年度茨城県表彰」を受けた。平成 12 年度に県立図書館新館が開館して以来、開かれた図書館づくりの一環として活動してきた県立図書館ボランティアの歴史を受け継いで、その目的の実現のために、いま、何ができるのか、図書館とともに考えながら歩いていくことが大切な課題だと思う。

対面朗読委員会
高根沢洋子

対面朗読を 27 回、延べ 81 時間行った。活動したボランティアは延べ 57 人。24 年度は 106 回、207 人。25 年度は 68 回、107 人。年々減少する一方である。対面朗読を依頼される方は多くが継続的に来館されるが、その人数が減少しており、26 年度は 2 名であった。その背景には、依頼者の高齢化もあるが、やはりサピエ図書館に代表されるよ

うなネットを利用しての情報のデジタル化があるといえよう。しかし、人と人が対面して図書館の書物の世界を辿っていく、このサービスの魅力は失われることはない。

利用者は少なくとも、依頼があれば応えることができるよう、26年度も2回の講師を招いての、発声・滑舌・読みの研修、県立視覚障害者福祉センター・点字図書館を見学し、視覚障害者がどのような情報入手環境のもとにあるかについて研修するとともに、毎月の定例会での漢字練習や発声・呼吸法・初見読みの勉強会など、皆で頑張っている。

録音図書製作委員会
近藤淑子

- 1) 録音図書製作 個人製作及び全員での短編集製作。
- 2) 定例勉強会 12回、県南勉強会 20回。
- 3) 研修会 10月に中島八重子講師をお迎えして「読み」の研修。
- 4) 図書館イベント協力 8月に「名作を楽しむ会」宮沢賢治作品『よだかの星』音訳。11月に読書フェスティバル・探検ツアーでの録音図書製作体験。
- 5) 全国音訳ボランティアネットワーク・シンポジウム。

5月に「利用者のホンネに迫る！！」参加。

課題は、利用者のためのより質の高い録音図書製作、読みの勉強、録音技術の向上など。

児童サービス委員会
大谷耕治

私たちは主に1階子ども図書室の「おはなししつ」で、おはなし会をひらいている。

「児童」サービスではありますが、来てくれるのは幼児が多く、子どもたちが絵本に親しんでもらえるよう、手遊びや人形劇、紙芝居など、あの手この手で盛り上げている。子どもたちだけでなく、内心は一緒に来て下さったお母さんやお父さんにも楽しんでもらおうと頑張っている。

そんななか、去年は「ちょっぴり大人の夏休みおはなし会」を開いた。ちょっと、背伸びしたおはなし、そして、戦争の事を伝えたい、そんな日頃からの思いを詰め込んだおはなし会だった。

最近テレビがますます高画質になり、ネットでは面白い映像が自由に見られるようになってきているが、子どもたちと楽しさや感動を分かち合える「おはなし会」をこれからも大切に育てていきたいと思っている。

資料配架委員会
吉田善克

「おっ！大漁、大漁」と心の中で、そう呟く。貸出しから帰ってきた多くの本がブックトラック（本専用の台車）に並んでいる。一冊一冊の本には、それぞれ住所のようなものが付いている。背表紙に貼られたラベルの番号がその住所を示す。「えーと、ここだったかな？」と番号を確かめながら棚に戻す、戻す、戻す、ゲームみたいだ。戻しな

がら、同時に棚の整理も行う。傾いた本たちが「シャキッ」と並ぶ。これもまた気持ちが良い。この気持ち良さ、一度覚えると病みつきになる。「こんなタイトルの本もあったのか?」。棚の整理をしていると新たな本との出会いもある。

最初は、自分の得意な分野の棚から始め、慣れてきたら他の分野の棚に挑戦してみる。自分が借りる事の無い分野の棚の場合は、ちょっとした探検気分が味わえるのも良い。「あ、もう時間だ」と活動日や時間も自分のスタイルで選べるのも助かる。地味な感じだが、意外と「達成感」や「刺激」があったりするのも味わい深い。

総計従事日数は 224 日、総計人数は 380 名。

参加は、お一人様でも、大歓迎！ あなたの参加を歓迎。

三の丸書庫委員会
黒澤英宣

県立図書館の蔵書は、91 万 8 千冊、そのうち、三の丸書庫には、一般図書約 13 万冊、児童図書訳 10 万冊があり、現在、10 名のボランティアが登録している。活動内容は、1 年をとおして、①資料配架、②本の修理、③ブックカバー、④背表紙への県立表示シール貼り、⑤書庫内の環境美化などで、平成 26 年度は、計 27 日、活動した。

毎月 2-3 日程度、9:30-12:00 の活動である。貸出し先は、学校などが主で、職員や保護者のグループが出入りしている。傷んだ本の整理が進み、書庫内は、美化が図られつつある。活動日は、普及課が指定するが、メ

ンバーは、個々に活動日を選んで自由に参加している。平均 3-4 名が参加している。ただ、「倉庫」だけに、寒さと暑さが、「若干?」、気になりますが、メンバーの皆さんは、楽しく、明るく、活動している。こんな三の丸書庫での活動にあなたも参加してみませんか?

郷土資料整理委員会
中山真一

郷土資料ボランティアの主な仕事は、図書館所蔵の古文書を解読し、それをデータベース化し、最終的には、冊子に、あるいは、ホームページに掲載して、興味のある読者に公開することである。古文書は、書き写される途中で誤記があつて、人名・地名の表記に慎重な現代人とは違い、同音であれば、同一の人や土地に様々な漢字を当てたりと、時々、難問も発生しますが、解読し読み下し文にする時には、数人で、何回か、チェックし、古文書の雰囲気を残したまま、初めて読む人にも、理解しやすくすることに苦心する。その後、冊子化するには、パソコンの得意なメンバーに頼ることになる。また、製本の際には、図書修理ボランティアの人の指導をいただくこともある。

2 ヶ月に 1 度、進捗状況の確認や打ち合わせのため、会合を開いている。もう少しペースを上げることが、課題ですが、慎重に検討しながら、できるだけ満足のいくものを読んでいただけるように頑張っている。

図書修理委員会
奈良圭子

1) 損傷した図書の修理を、毎週金曜日 10 時から 16 時頃まで、ボランティア室で実施した。

年間活動日数 43 日
修理冊数 562 冊

2) 図書館イベントへの参加(2 回)

「本のお医者さん」で一般の方に修理体験してもらった。

3) 学校図書支援員第 2 回全体研修会
古河市で開催された研修会に参加。

本の修理技術の指導を行い、大変勉強になったとの感謝の言葉を頂いた。

4) 守谷市立図書館への視察、研修

今後も修理技術の向上と伝習に努めたい。

平成 26 年度茨城県表彰を受けて

協議会
高根沢洋子

「茨城県立図書館ボランティア」は、功績団体表彰「教育・文化の向上」の部で平成 26 年度茨城県表彰をうけた。概要には「多年にわたり、本を読むことに不自由な方への対面朗読や録音図書作製、子どもたちへの読み聞かせなど利用者のニーズに対応したサービスを積極的に行い、本県の教育文化の向上に寄与した」と記されている。

平成 13 年旧県議会議事堂を改修、新館として開館。10 分野 188 人の登録者で出発し、当時の館長（武子剛二氏）が「絶えない人の

流れの中に、緑のユニフォームを着たスマートな身のこなしの職員風の方々が散見される」と書き、その活動の特色として「高い使命感と研修意欲」をあげている。以来、実に 13 年、ここに県表彰を受けたのである。先輩方の熱い思いを受け継ぎ、心新たにその歩みを続けていきたいと思う。

ボランティア全体会開催予告

協議会
高根沢洋子

平成 27 年度ボランティア全体会及び運営委員会開催

日時 5 月 29 日（金）10 時から 12 時
会場 茨城県立図書館 3 階会議室 1・2
内容 全体会 館長あいさつ・職員紹介
県立図書館概要説明
ボランティア協議会
26 年度活動報告・会計報告
27 年度活動計画・予算
質疑・諸連絡

運営委員会（各分野に分かれて実施）

県立図書館ボランティアが一堂に会する、年に一度の全体会である。新しい年度を迎え、図書館について直接館長からお話もあり、日頃思っている事を伺う良い機会でもある。全体会のあとの運営委員会は堅い名称ですが、ボランティアが全員、その構成員である。ようするに、分野ごとでの集まりである。あなたの出席をお待ちしています。

編集後記

ちょうど2年間、ボランティアご一同様に「かがやき」を手にしていただくことを怠っていました。まことに遺憾なことで広報委員会として深くお詫び申し上げます。今般、新しく出発するに当たり、広報ボランティアの募集を行いましたところ、ただ一人の男性応募があり、この方に仲間入り願うことが出来ました。桜井淳さんです。

思いもかけなかった著述家であられる上、マスコミの知識を初め、諸般の見識豊富な方です。加えて団塊の世代の先発年齢であります。ただ一人、広報委員会に残った私には、大自然が与えてくれた貴重な人材とまことに嬉しく、大自然に深く感謝しております。桜井さんには、早速、委員長を承諾いただき、今般の復刊号をすべて扱っていただきました。私は桜井さんに重ねて感謝しております。

今後も桜井さんのすばらしいアイデアと深い見識から生まれる「かがやき」はボランティア諸兄弟のご期待に沿う作品になると存じます。当面、広報委員会は、桜井さんと私の二人で再出発となります。この仲間に入って見て、自分も力を出して良い「かがやき」を継続していきたいとのご意向の方は、ぜひ、仲間になってください。お待ちしております。

上條 哲

平成27年2月から「かがやき」の編集に携わることになりました。現職の茨城新聞社客員論説委員です。よろしくお願いいたします。

まず、問題を把握するため、図書館のホームページにアップされている「かがやき」のすべてのバックナンバー(1・24号)を熟読いたしました。それらの主な記事は、各委員会の年度別の活動報告や催し物の開催報告でした。ボランティア協議会は、年度ごとに多少の変動はあるものの、構成員数200名弱、そのうち、女性85%、男性15%、年齢構成は、20-80歳台で、40-50歳にピークが認められます。熱心な奉仕者は、30%で、特に、本の修理や書架返却に、需要が多く、図書館の中でも、重要な位置づけになっているように思えます。

今回の25号においては、年度始めであるため、これまでのパターンどおり、各委員会の平成26年度の活動実績と課題をまとめてみました。本文は「である調」、編集後記だけは、親しみやすくするため、「ですます調」にいたしました。いただいた原稿は、全体的統一を図るため、わずかに、編集いたしました。ご容赦いただきたいと思っております。

「かがやき」の読者は、ボランティア構成員の30%と推定されています。より魅力ある内容にし、より多くの読者を確保しなければなりません。そのためには「図書館」「ボランティア」なるキーワードに関係するエッセーや文化記事なども掲載したいと考えております。

「かがやき」の読者は、ボランティア構成員と図書館職員だけでなく、図書館ホームページにアクセスする国内外の多くの閲覧者もいるはずで、今後は、それらの人達にも関心を持っていただけるような工夫も必要でしょう。今年度後半から、新たな試みが反映される内容にしたいと考えております。

桜井 淳